

週間展望(10/25~10/31)

~ WEEKLY FORECAST ~

調査課

菊川 弘之



PHOTO by KIKUKAWA

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/25~10/31)

~ ドル円 ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

115円は上抜けず

- 先週レポートで「心理的節目115円を上抜けて走るか、それとも上値を抑えられ反落となるかが焦点。今週は満月や水星逆行の終了、メリマンの重要変化日など、トレンド変化(加速or反転)が起こりやすい時間帯である。上抜けた場合は、2016年12月高値の118円台が意識される。頭打ちの場合、112円台が下値支持」としたが、先週は、原油高が一段と進行するなどインフレ警戒が高まり、米10年債利回りは節目の1.70%に達した。週末には中国恒大がドル建て社債の利払いを実施と報じられ、リスクオンの動きからドル円は、一時114.70レベルと約4年ぶりの高値水準をつけた。ただし、心理的節目115円を上抜けず反落。
- 前週末は、パウエルFRB議長が22日、参加した討論会で「供給制約が悪化している」と指摘し、インフレの長期化に懸念を示した。FRBが金融政策の正常化を急ぐとの見方が強まる場面もあったが、債券市場での週末前の持ち高調整から米長期金利が低下し、円買い・ドル売りが優勢だった。
- 9月下旬から短期間で大きく円安が進んだ中、心理的節目115円を上抜けなかったことで、利益確定の円買い・ドル売りも入った。
- ユーロは対ドルで反発。米長期金利低下を受けユーロ買い・ドル売りが優勢。
- CFTC建玉明細(10/19現在)は、102,734枚の売り越し。前週(76,634枚の売り越し)から拡大。
- NYダウは、8月16日以来、2ヶ月ぶりに過去最高値を更新した。中国恒大集団が、ひとまず債務不履行(デフォルト)を回避できる見通しとなったことが好感された。また、市場予想を上回る決算を発表したアメックスが大幅に上昇し、ダウ平均を押し上げた。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/25~10/31)

~ ドル円 ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

出口戦略への道は、
英国・米国・ECB、
大きく遅れて日本

- ドル円は、2015年高値を起点とした下降トレンドを上抜き、上げ加速となっていたが、2017年以降、上値抵抗として機能している心理的節目115円に上値を抑えられた。下値支持は112円水準。引き続き、115円の攻防が焦点。
- 原油高によるインフレ圧力が高まっており、各国中銀の金融正常化への一因となっている。ニュージーランドでは、NZ準備銀行(RBNZ)が10月に利上げに動いた。主要国では、英中銀(BOE)が早ければ11月にも利上げに動くといった観測が出ており、米国では11月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的緩和の縮小(テーパリング)を決定する可能性が高い。
- 28日の欧州中央銀行(ECB)理事会では、金融政策に変更はないとみられる。前回(9月9日)の理事会では、主要政策金利を据え置き、パンデミック緊急購入プログラム(PEPP)に関しては、1兆8500億ユーロの規模を維持。少なくとも2022年3月までは継続する。なお、資産購入ペースの減速を決めたが、日本では金融緩和が継続される方向で、金融正常化への道筋が見えない。
- 米長期金利が上昇傾向にあり、ドルと比べて円は相対的に売られやすいものの、既にFF金利先物は、2022年の2回弱の利上げを織り込んでおり、115円を上抜け切れないと、テーパリング開始が決まっても、上値は限定的との見方も強い。
- 原油を始めとしたエネルギー価格高騰が、冬場にかけて長引き、「良い金利上昇」ではなく、「悪い金利上昇」からのスタグフレーションを警戒する声も強い。
- 衆院選挙前哨戦の参院静岡、山口両選挙区の補欠選挙(24日に投開票)は、1勝1敗。2勝を目指していた与党にとって衆院選挙、来夏の参院選挙に不安が残る結果。衆院選の結果次第では、岸田政権の政権実行力に疑問が高まる。
- 日本の国政選挙に合わせるかのように、過去、北朝鮮によるミサイル発射が行われたが、今回も要注意。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期しておりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/25~10/31)

~ 貴金属市場(金: GOLD) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「JPX金は11陽連となり、RSIなどのオシレーター系指標は、短期的な買われ過ぎ感を示唆しており、NY金の反落で短期調整が予想されるが、下値は、ボリンジャーバンドの+1σ~21MA、価格帯別出来高の厚い6350円~6450円水準などは、強力な支持帯となりそうだ。
- インフレ懸念の高まり・悪い金利上昇を織り込む格好で、押し目は買われそうだが、要注意は暗号資産(ビットコイン)の動き。米証券取引委員会(SEC)がビットコイン関連のETF(上場投資信託)を近く承認するとの観測が強まり、買いが膨らんでいる。承認なら金から、一部資金シフトも想定」としたが、先週のNY金(12月限)は、暗号資産ビットコイン先物に連動した上場投資信託(ETF)「プロシエアーズ・ビットコイン・ストラテジーETF」が19日、ニューヨーク証券取引所(NYSE) Arcaに上場した事で、資金シフトを嫌気する動きもあったが、押し目は買われて週末にかけて下値を切り上げた。
- 先週末のNY金(12月限)は反発した。米長期金利低下・ドル安を受けて1800ドル台を回復。一時は1815.5ドルと約1ヶ月半ぶりの高値を付けた。強気のテクニカルと米長期金利が低下したことで買い意欲が強まった。しかし中盤に入ると、利食い売りなどで上げ幅を縮小、前日終値水準での取引となった。後半から終盤に週末を控えた買い戻しなどで持ち直したが、1800ドル台を回復するには至らず。陽線ながら、長い上ヒゲを形成した。6月高値を起点とした下降トレンド上抜けは、明確ではない状態。
- CFTC建玉明細(10/19現在)は、193,349枚の買い越し。前週(185,539枚の買い越し)から拡大。
- 22日のSPDRゴールドの現物保有高は、前日比変わらずの978.07トン。

ビットコイン先物連動
ETF上場を嫌気

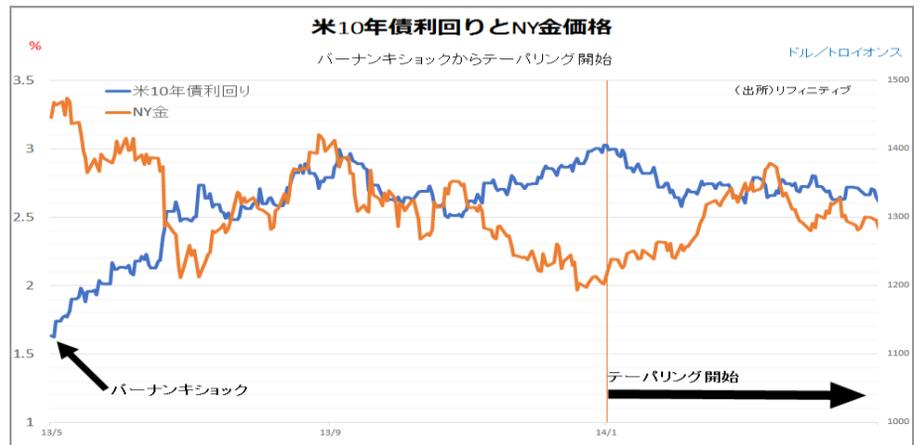
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/25~10/31)

~ 貴金属市場 (金 : GOLD) ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- FRBは11月2-3日の次回連邦公開市場委員会(FOMC)で、毎月の債券買い入れ額縮小(テーパリング)計画を発表、年末年始に開始ということが市場コンセンサスだが、2013年のバーナンキショックから2014年のテーパリング開始の際は、米10年債利回りは、テーパリング開始に向けて上昇、NY金は下落したが、実際のテーパリング開始で「知ったら終い」となり、米金利は反落、NY金は反発となった。
- エネルギー価格上昇が、スタグフレーション(物価上昇と景気停滞)に陥るリスクも警戒され始めている。「良い金利上昇」で株価・ドルが上昇するなら、金の上値は抑えられるが、「悪い金利上昇」となるなら株価・ドルは下落、金は強い上昇を見せるだろう。
- 米国債の債務不履行(デフォルト)は回避されたものの、12月以降の予算執行には債務上限の引き上げが再び必要になる。年末には再び、与野党間のチキンレースが材料視されるだろう。ビットコイン先物ETFへの資金シフトが上値抑制要因だが、金相場は下値を固めながら、上放れを待つ展開を予想する。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/25~10/31)

~ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「テクニカル的には底打ち・好転し始めた白金相場だが、中国不動産大手恒大の利払い猶予期間が今後、相次いで迫ってくる。トヨタ自動車は、半導体不足や中国での電力不足が響き、11月の世界生産を直近の生産計画から15%程度減らすと発表しており、現在形成されているポリンジャーバンドのバンドウォークが崩れた場合、深めの調整も要想定」としたが、先週は、ドル安や株高を受けて押し目を買われて堅調となった。
- イングランド銀行(BOE)の利上げ観測などを受けてドル高が一服。11月と12月の決定会合で利上げが実施されるとの見方が強い。一方、米連邦準備理事会(FRB)が11月の米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的緩和の縮小(テーパリング)開始を発表するとみられているが、利上げは、まだ先と見られており、ポンド買い・ドル売りが高まった。

ネックラインで下支えられるも、上値は重い

- 先週末のNY白金(1月限)は、小反発。ドル安・金高を受けて堅調となり、1080ドルを試したが、金、銀が高値を離れたのと足並みを合わせ、急速に軟化した。後半から終盤は戻りは鈍い展開ながら、かろうじてプラスサイドを維持した。
- CFTC建玉明細(10/19現在)は、14,844枚の買い越し。前週(10,919枚の買い越し)から拡大。
- プラチナETF(上場投信)の現物保有高は、20日のロンドンで20.93トン(前週末20.85トン)に増加、ニューヨークで38.11トン(同38.11トン)、南アで13.65トン(同13.65トン)と変わらずとなった。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/25~10/31)

~ 貴金属市場 (白金 : Platinum) ~

調査課

菊川 弘之



【今週見通し・戦略】

- 欧州自動車工業協会(ACEA)によると、9月の欧州連合(EU26)の新車(乗用車)登録台数は前年同月比23.1%減の71万8598台となった。1~9月は前年同期比6.6%増の752万6613台。半導体不足を受けて自動車メーカーが減産しており、欧州の乗用車登録台数が減少していることは上値抑制要因。
- トヨタ自動車は、半導体不足や中国での電力不足が響き、11月の世界生産を直近の生産計画から15%程度減らすと発表している。
- テクニカル的には底打ち・好転し始めた白金相場だが、米株価は好決算などを受けて買い優勢となり、NYダウやS&P500が史上最高値を更新した。米新規失業保険申請件数も減少しており、労働市場の引き締まりが示されている。
- 米地区連銀経済報告(ページブック)では、新型コロナウイルス新規感染者数がピークを過ぎ収束し始めた9月から10月初旬にかけて、米経済は「控えめから緩やかな」成長率で推移したとの見方を示した。
- ただ9月の米鉱工業生産統計は、自動車生産の落ち込みから製造業生産指数が予想外に低下するなど、米マクロ経済指標は、強弱マチマチ。
- 一方、バイデン米大統領は20日、インフラ投資法案と気候・社会保障関連歳出法案の協議が進むなか、インフラ・歳出計画を推進する必要があると訴え、ペロシ下院議長はインフラ投資法案の下院での通過期限を10月31日に設定している。米軍のアフガン撤退以降、バイデン大統領の支持率は低下傾向が止まらず、来年の中間選挙を前に、早くもレイムダッグの様相。
- ボリンジャーバンドで「JPX白金-金」の鞘が、21MA(-2761円)を下回ってくると、「金買い・白金売り」トレンドが開始となる。%Bのクロスと共に、割り込んでくると、その信頼性は高まる格好に。

インフラ投資法案の
下院での通過期限は
10月31日

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/25~10/31)

~ ゴムRSS 3号先物 ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「円安・株高・原油高が支援要因だが、トヨタ減産は上値抑制要因。ボリンジャーバンドのバンドウォークが継続するか否かに注目」としたが、先週は、エネルギー高や他商品高に加えて、上海ゴムが低在庫懸念を背景に急騰する中、JPXゴム先限も249.8円まで大幅上昇。バンドウォークが継続した。
- ただし、中国当局が高騰していた石炭の安定供給の為に、介入との報道に、中国商品全般が急落、上海ゴムも追随し、JPXゴムも上げ幅を削った。
- 18日、中国国家统计局が発表した2021年7~9月の国内総生産(GDP)は、前年同期比4.9%増。事前予想の同5.0%増を下回ったうえ、4~6月期の7.9%増から減速した。エネルギー価格上昇や、新型コロナウイルスの感染が再拡大したことなどが背景。
- 9月の鉱工業生産指数も前年比3.1%上昇と、事前予想(3.8%上昇)を下回り、8月(同5.3%上昇)から減速するなど、中国の景気減速懸念が強まってきたことも、ゴム相場の上値抑制要因。
- 全国生ゴム営業倉庫在庫は、9月20日現在12,136トン(前旬比572トン増)。9月中旬の入出庫は入庫1,016トン、出庫444トン。

【今週見通し・戦略】

- JPX先限は、バンドウォーク継続も、22日は上下に長いヒゲを形成しており、短期的には終値ベースで、22日のレンジを抜けた方向に、動意付きそう。下値支持は228円水準。同水準を維持できれば、バンドウォーク継続。
- 一方、中心限月の3月限の下値支持は、220円水準。
- 先限週足での三尊天井のネックラインの攻防に差し掛かっており、上値抵抗を受け易い水準でもある。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/25~10/31)

~ 穀物市場 (大豆・コーン) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「ハーベストプレッシャー(収穫期の下げ圧力)で上値は抑えられそうだが、大豆は12ドル、コーンは5ドル水準が下値支持として意識されそう。中長期での押し目買いスタンス継続。」としたが、弱気の米農務省(USDA)需給報告を受けた安値は、シカゴ大豆(11月限)は、12ドル割れ、シカゴコーン(12月限)は、5ドル水準で一旦は見た格好。
- 先週末のシカゴ大豆(11月限)は続落。大豆油価格の軟化が弱材料となった。目先の高値確認感が強まったことに加え、週末を控えて手仕舞い急ぎの売りが入ったことも一因。先週末のシカゴコーン(12月限)は反発。小麦価格の堅調な足取りや肥料や農薬の価格上昇を受けた来年度の作付縮小懸念、そして原油価格の上昇に伴うエタノール生産用需要の拡大期待が買いを支援した。
- 大豆CFTC建玉明細(10/19現在)は、43,541枚の買い越し。前週(41,990枚の買い越し)から拡大。コーンCFTC建玉明細(10/19現在)は、277,029枚の買い越し。前週(279,288枚の買い越し)から縮小。
- 週間純輸出成約高(10月14日までの週)
 - 大豆: 287万8400トン(事前予想レンジ: 120万~250万トン)
 - コーン: 127万3600トン(事前予想レンジ: 70~140万トン)

【今週見通し・戦略】

安値で需要が喚起

- 価格下落を受けて大豆・コーン共に輸出用需要が増加しており、世界的なエネルギー価格の上昇で、食用油の需給引き締めや、エタノール向け需要増加期待、電力不足に見舞われている中国で生産量が減少するとの懸念などが意識されている。
- 米気象庁(NWS)は今月に入り、冬季にラニーニャ現象が発生する確率は70~80%と発表。南米産穀物の生育に障害が出るようなら在庫の積み増しが困難になる為、ハーベストロー(収穫期の安値)が限定的となる可能性も。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

週間展望(10/25~10/31)

~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之



【前週レビュー】

- 先週レポートで「価格上昇の割に、大口投機玉の買い越しは40万強(1枚=1000バレル)。2018年には70万枚を超える場面もあったことを考えると、現時点で、投機的な過熱感は低い。脱カーボンの潮流の中、OPECやシェール業界が生産能力拡大に及び腰であり、直ちに原油供給が増えそうになく、中東の地政学リスクも潜在する中、最大需要期の冬季に向けて、押し目を買う動きは継続しそうだ」としたが、先週は、世界的な天然ガスの供給難と中国の石炭の供給難による原油へのエネルギー需要のシフト見込みが引き続き、材料視され高値更新。
- 米海洋大気局(NOAA)が21日に公表した今冬の気象見通しで、米南部や東部を含む多くの地域で気温が例年より高くなるとの予想が示され、天然ガス価格が下落、暖房向け需要の高まりに対する警戒感がやや薄れ、利益確定売りを促した。中国政府の介入示唆を受けて石炭価格が急落したことも圧迫要因となったが、調整安は限定的だった。
- 先週末のNY原油(12月限)は、反発した。中国不動産大手の恒大集団が23日が期限のドル建て社債の利払いを実施したとの報道を好感した。
- 前日21日の高値83.96ドルを上抜けず、利食い売りもあったが、83ドル台後半で堅調に引けた。今週の米エネルギー情報局(EIA)週間在庫統計で、原油在庫は市場予想に反して減少。クッシング原油在庫は3年ぶりの低水準だったが、来週発表分もクッシング在庫は減ると見込まれているとの見方も一因。
- 石油サービス会社ベーカー・ヒューズが22日に発表した米国の石油生産向けの掘削設備(リグ)稼働数は前週から2基減った。7週間ぶりの減少で、米国の供給減観測も相場を支えた。
- CFTC建玉明細(10/19現在)は、429,594枚の買い越し。前週(404,776枚の買い越し)から拡大。

7年ぶりの高値更新

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

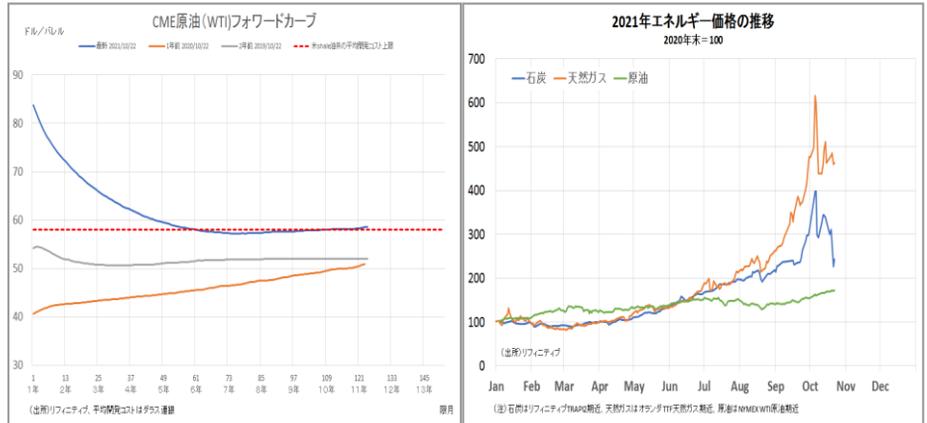
週間展望(10/25~10/31)

~ 原油市場 (ドバイ原油・CME原油指数) ~

調査課

菊川 弘之

【今週見通し・戦略】



石炭や天然ガスから
需要シフト

- 世界銀行は21日のレポートで、21年のエネルギー価格指数が前年比83%上昇すると予想した。原油高に加え、7~9月期に天然ガスや石炭価格が過去最高に押し上げられたことが背景。また、2021年の原油平均価格を70ドル、22年を74ドル、23年を65ドルと予想。
- 石炭や天然ガスの価格の高騰で、11~12月にかけて発電やエネルギー業界からの原油需要が日量75万バレル増加する可能性があり、需要シフトにより210万バレルの在庫が切り崩される可能性があるとの見方も出ている。
- サウジアラビアのアブドラジズ・サルマン・エネルギー相は、今冬の天然ガスから原油への需要シフトが日量50万~60万バレルに達する可能性があるとしている。
- 石油輸出国機構(OPEC)プラスの今年第4・四半期の生産量が推定需要を日量70万バレル下回ると予測。少なくとも年内は需要が供給を上回るとの見通しを示した。
- 一方、中国証券監督管理委員会(CSRC)は20日、石炭価格の高騰に対処するため、先物取引所に対し、手数料の引き上げ、取引枠の制限、投機取引の規制を要請する考えを示した。中国当局の石炭価格介入表明を受け、石炭価格は下落、中国関連コモディティの下落が目立つものの、原油の相対的割安感に変化はなく、冬場の需給タイト感は大きくは変わらないことから、中国当局の介入に追隨して原油が下落する場面があれば、結局は買い場を提供することになるかもしれない。
- NY原油の当先逆ザヤも継続しており、「逆ザヤに売りなし」の状況が、もうしばらく続きそうだ。価格帯別出来高の厚い78-80ドル、70-73ドル水準は、堅い下値支持帯。5ドル刻みで上値を試す動きが継続見通し。要注意は、中国でのコロナ感染再拡大の動き。

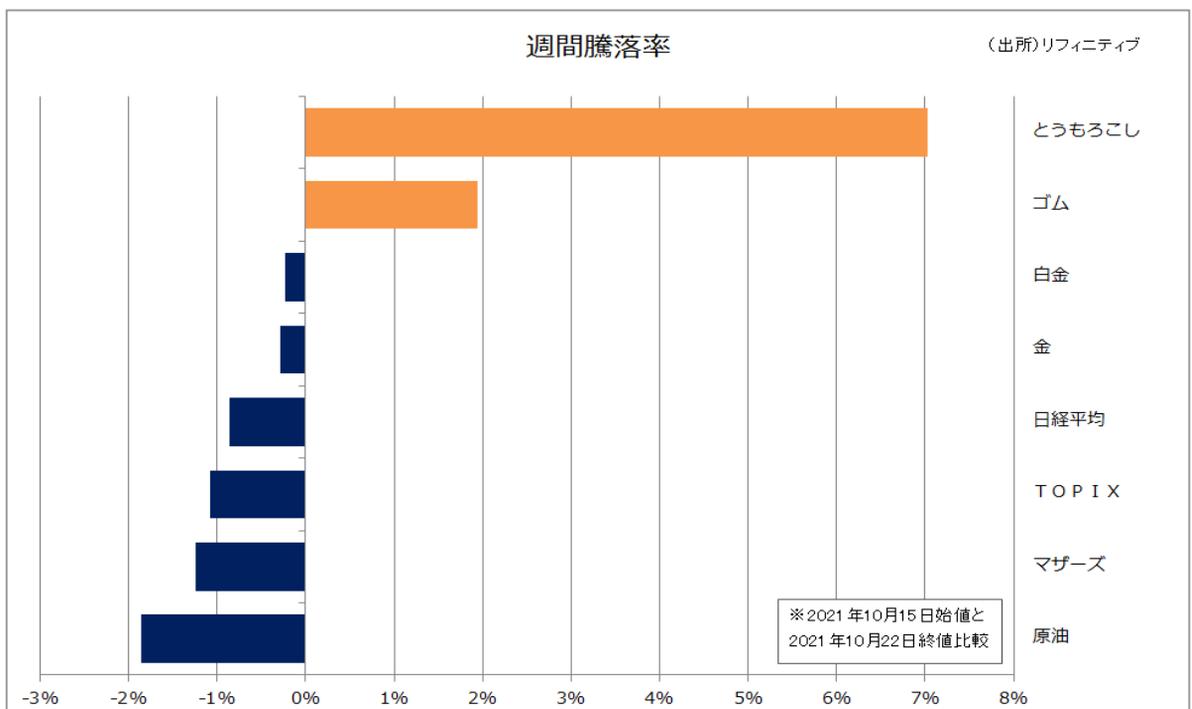
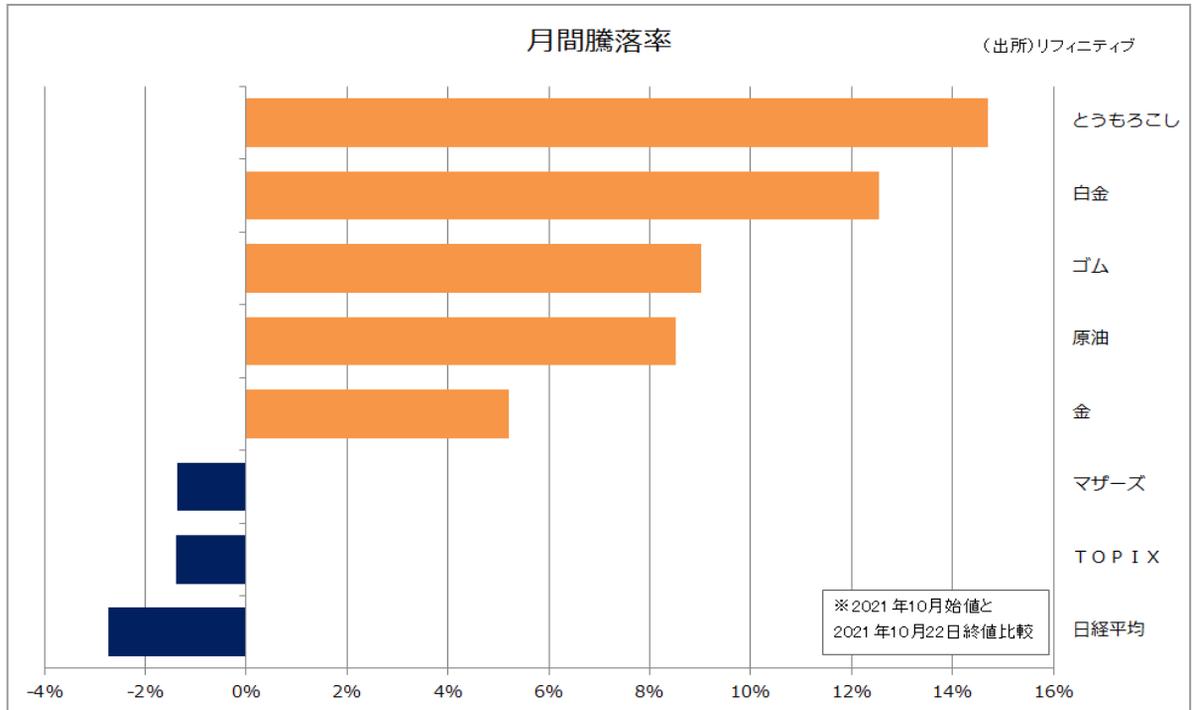
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【週間行事予定(10/25~10/31)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回	事前予想	
10月25日(月)	17:00	ドイツ	10月	IFO 業況指数(新)	98.8		
	17:00	ドイツ	10月	IFO 現況指数(新)	100.4		
	17:00	ドイツ	10月	IFO 期待指数(新)	97.3		
	納会	日本	---	ゴム (RSS3) 2021年10月限納会日			
10月26日(火)	納会	日本	---	金ミニ・白金ミニ2021年10月限取引最終日			
	納会	日本	---	東京石油製品2021年10月限納会日			
	19:00	英国	10月	CBI 小売売上高	11		
	22:00	米国	8月	ケース・シラー20(前月比) 季調値	1.5%		
	22:00	米国	8月	ケース・シラー20(前年比)	19.9%		
	23:00	米国	10月	消費者信頼感指数	109.3	110.0	
	23:00	米国	9月	新築住宅販売戸数	0.740(百万)	0.763(百万)	
10月27日(水)	納会	日本	---	貴金属2021年10月限納会日			
	納会	日本	---	小豆2021年10月限納会日			
	15:00	ドイツ	11月	Gfk 消費者信頼感指数	0.3		
	17:00	ユーロ圏	9月	マネーサプライ M3 伸び率(前年比)	7.9%		
	21:30	米国	9月	耐久財受注	1.8%	-0.2%	
10月28日(木)	21:30	米国	9月	耐久財受注 輸送機器除く	0.3%	0.4%	
	納会	米国	---	NY金2021年10月限納会			
	8:50	日本	9月	小売業販売額(前年比)	-3.2%		
	15:00	英国	10月	ネーションワイド住宅価格(前年比)	10.0%		
	16:55	ドイツ	10月	失業率増減 季調値	-30(千)		
	16:55	ドイツ	10月	失業率 季調値	5.5%		
	18:00	ユーロ圏	10月	業況指数			
	18:00	ユーロ圏	10月	景況感指数	117.8		
	18:00	ユーロ圏	10月	製造業景況感指数	14.1		
	18:00	ユーロ圏	10月	サービス部門景況感指数	15.1		
	18:00	ユーロ圏	10月	消費者信頼感指数 確定値			
	21:00	ドイツ	10月	消費者物価指数(CPI) 速報値(前年比)	4.1%		
	21:00	ドイツ	10月	EU 基準消費者物価指数(HICP) 速報値(前月比)	0.3%		
	21:00	ドイツ	10月	EU 基準消費者物価指数(HICP) 速報値(前年比)	4.1%		
	21:30	米国	Q3	国内総生産(GDP) 速報値	6.7%	3.2%	
	21:30	米国	Q3	コア個人消費支出(PCE) 価格 速報値	6.1%		
	21:30	米国	10月18日, 週	新規失業保険申請件数			
	21:30	米国	10月11日, 週	継続失業保険支給総数			
	23:00	米国	9月	中古住宅販売契約指数(前月比)	8.1%		
	---	---	---	ECB理事会			
	---	日本	10月28日	日銀政策金利決定	-0.10%		
	10月29日(金)	8:30	日本	10月	東京都都区部消費物価指数(CPI)(前年比)	0.1%	
		8:30	日本	10月	東京都都区部消費物価指数(CPI) 総合(前年比)	0.3%	
8:30		日本	9月	有効求人倍率	1.14		
8:30		日本	9月	失業率	2.8%		
8:50		日本	9月	鉱工業生産 速報値(前月比) 季調値	-3.6%		
14:00		日本	9月	新設住宅着工戸数(前年比)	7.5%		
15:00		ドイツ	9月	輸入物価(前年比)	16.5%		
16:00		ドイツ	Q3	国内総生産(GDP) 1次速報値(前期比) 季調値	1.6%		
16:00		ドイツ	Q3	国内総生産(GDP) 速報値(前年比) 原数値	9.8%		
17:30		英国	9月	英中銀 消費者信用残高	0.400(十億)		
17:30		英国	9月	住宅ローン貸付額	5.293(十億)		
17:30		英国	9月	住宅ローン承認件数	74.453(千)		
18:00		ユーロ圏	10月	EU 基準消費者物価指数(HICP) 速報値(前年比)	3.4%		
18:00		ユーロ圏	10月	EU 基準消費者物価指数(HICP)(食品・エネルギー除) 速報値(前年比)	1.9%		
18:00		ユーロ圏	Q3	国内総生産(GDP) 1次速報値(前年比)	14.3%		
18:00		ユーロ圏	Q3	国内総生産(GDP) 1次速報値(前期比)	2.2%		
21:30		米国	9月	個人所得(前月比)	0.2%	0.3%	
21:30		米国	9月	実質消費支出(前月比)	0.4%		
21:30		米国	9月	消費支出(前月比) 季調値	0.8%	0.6%	
21:30		米国	9月	コア個人消費支出(PCE) 価格指数(前月比)	0.3%	0.2%	
21:30		米国	Q3	雇用コスト指数	0.7%	0.9%	
22:45		米国	10月	シカゴ地区購買部協会景気指数	64.7	64.6	
23:00		米国	10月	ミシガン大 消費者信頼感指数 確報値	71.4	71.5	
4:30	米国	前週分	CFTC建玉明細				
納会	日本	---	ゴム (TSR20) 2021年11月限納会日				
納会	日本	---	東京原油・石油スワップ2021年10月限取引最終日				
納会	米国	---	NYヒーティングオイル2021年11月限納会				
納会	米国	---	NYガソリン2021年11月限納会				
10月30日(土)							
10月31日(日)	10:00	中国	10月	国家統計局 製造業購買担当者景気指数(PMI)	49.6		

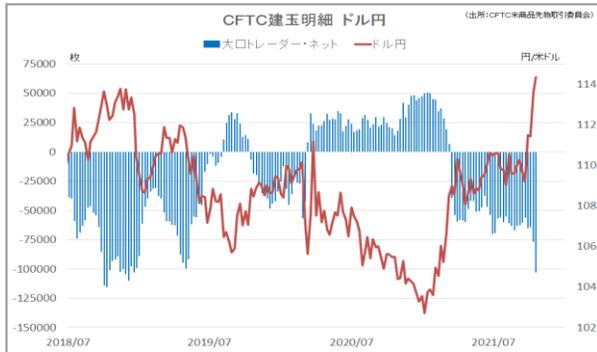
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社へ帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【騰落率(月間・週間)】

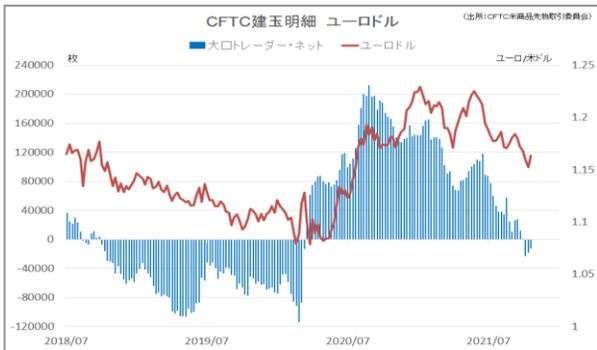


当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

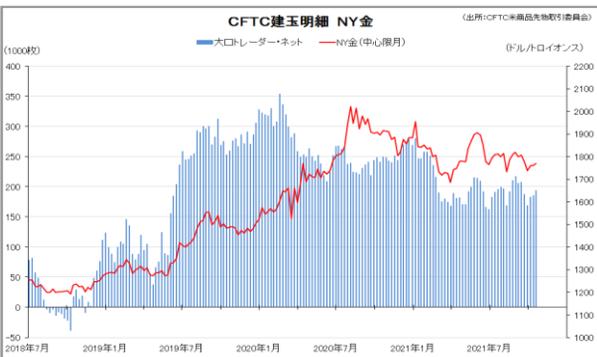
【CFTC建玉明細】



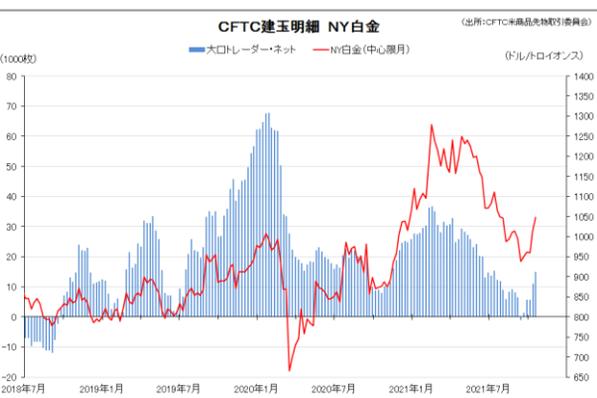
日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/21	22,844	78,915	-56,071	109.21
2021/9/28	35,328	100,088	-64,760	111.5
2021/10/5	31,569	95,263	-63,694	111.45
2021/10/12	35,810	112,444	-76,634	113.6
2021/10/19	35,713	138,447	-102,734	114.36
前週比	-97	26,003	-26,100	0.76



日付	大口投機玉			終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/21	189,406	177,311	12,095	1.1723
2021/9/28	195,043	194,171	872	1.1681
2021/10/5	196,819	219,153	-22,334	1.1596
2021/10/12	202,512	220,910	-18,398	1.1527
2021/10/19	193,320	205,427	-12,107	1.1632
前週比	-9,192	-15,483	6,291	0.0105



日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/21	296,670	109,023	187,647	1778.2
2021/9/28	293,814	125,415	168,399	1737.5
2021/10/5	295,939	113,357	182,582	1760.9
2021/10/12	298,503	112,964	185,539	1759.3
2021/10/19	299,882	106,533	193,349	1770.5
前週比	1,379	-6,431	7,810	11.2



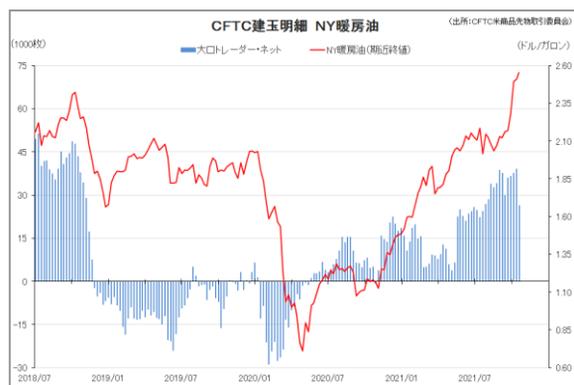
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/21	33,230	32,012	1,218	950.8
2021/9/28	31,908	26,255	5,653	961.9
2021/10/5	32,414	26,899	5,515	959.8
2021/10/12	31,711	20,792	10,919	1011.7
2021/10/19	30,917	16,073	14,844	1047.1
前週比	-794	-4,719	3,925	35.4

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

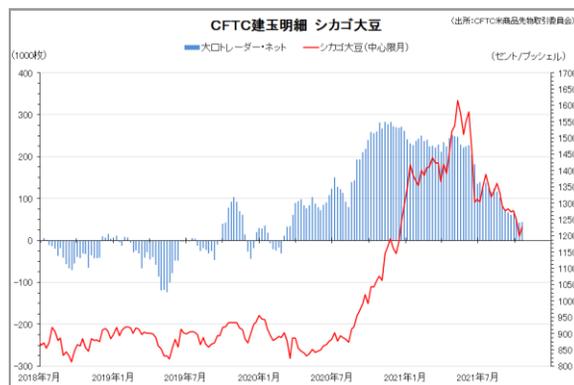
【CFTC建玉明細】



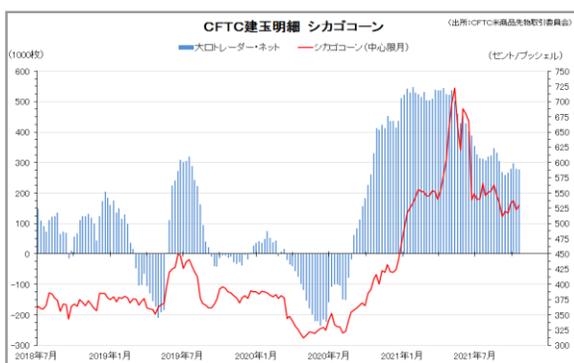
日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/21	506,363	150,385	355,978	70.49
2021/9/28	527,523	153,709	373,814	75.29
2021/10/5	548,561	150,254	398,307	78.93
2021/10/12	564,001	159,225	404,776	80.64
2021/10/19	565,720	136,126	429,594	82.44
前週比	1,719	-23,099	24,818	1.80



日付	大口投機玉			期近終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/21	75,893	40,003	35,890	2.171
2021/9/28	72,075	35,485	36,590	2.286
2021/10/5	72,173	34,625	37,548	2.4936
2021/10/12	72,833	33,696	39,137	2.51
2021/10/19	68,516	42,075	26,441	2.5517
前週比	-4,317	8,379	-12,696	0.0417



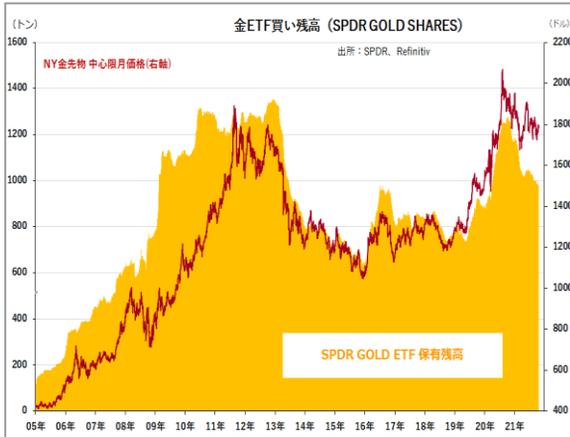
日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/21	138,867	77,813	61,054	1274.00
2021/9/28	141,105	76,385	64,720	1277.00
2021/10/5	137,547	86,146	51,401	1250.50
2021/10/12	134,258	92,268	41,990	1198.25
2021/10/19	138,576	95,035	43,541	1228.00
前週比	4,318	2,767	1,551	29.75



日付	大口投機玉			中心限月 終値
	ロング	ショート	差引枚数 (ロング - ショート)	
2021/9/21	368,776	103,275	265,501	517.00
2021/9/28	386,177	107,631	278,546	532.50
2021/10/5	410,799	113,794	297,005	537.50
2021/10/12	402,726	123,438	279,288	522.50
2021/10/19	390,081	113,052	277,029	530.25
前週比	-12,645	-10,386	-2,259	7.75

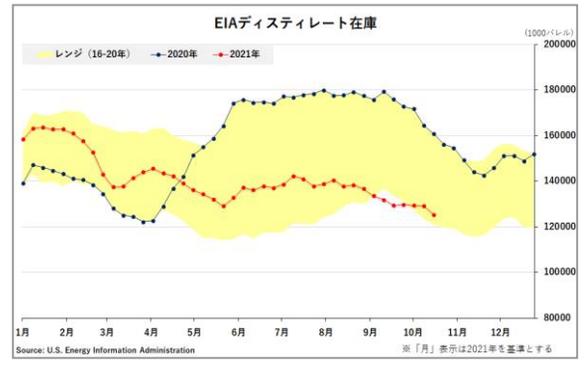
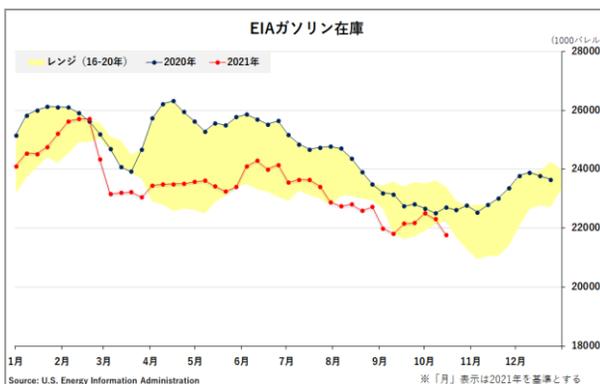
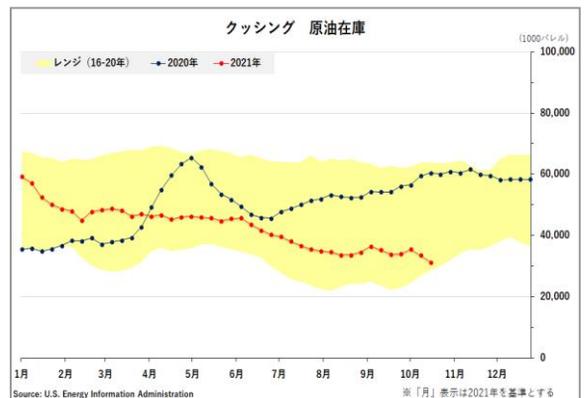
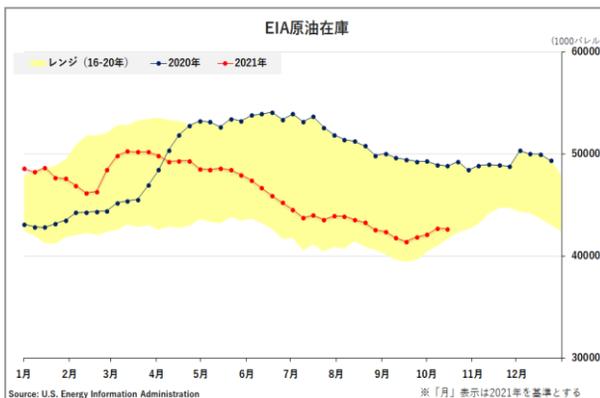
当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【金ETF (SPDR)】



日付	金保有高(トン)	前営業日比
2021/10/22	978.07	±0
2021/10/21	978.07	-2.03
2021/10/20	980.10	±0
2021/10/19	980.10	±0
2021/10/18	980.10	±0
2021/10/15	980.10	-2.62
2021/10/14	982.72	±0

【EIA在庫】



当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等>日産証券株式会社 (〒103-0014東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-11)

関東財務局長 (金商) 第131号金融商品取引業者商品先物取引業者

<加入協会>日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。

当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。